

〔研究ノート〕

若年者の働く意欲・生きる意欲について

——大学卒業後3年の社会人を対象とした調査より（その2）——

市川 緑

I. 問 題

近年、若年者の労働問題についてその実態や意識に関する議論や研究が盛んになっていることはすでに述べた（市川，2014）。卒業後3年を経過した社会人を対象として、アンケート調査を実施し、仕事への意欲、人生への意欲は、男女差も就業形態（常勤・自営かそれ以外か）、さらに転職経験があるかないかによって、いずれにも有意な差は認められなかったことを報告した。つまり、就職後早い時期に退職したり転職したりするのは、仕事や人生に対する意欲が低く忍耐力が足りないというような個人の資質によるものではなく、むしろ、やりたいこととのミスマッチも含めて、働きがいのある仕事（ディーセント・ワーク）ではなかったからではないかと考えられた。

また、①大学時代のどのような体験が今の生活に役立っているか、②実際にはやらなかったが体験しておけばよかったと思うのはどんなことか、も合わせてたずね、①では、アルバイトが圧倒的に多く、常識が身に付いたり人間関係に役立っているという回答が多かった。②では、もっと多くの人と交流しておけばよかった、時間がたっぷりあったのだから海外旅行をしておけばよかったという回答が目立った。

これらを踏まえ、ここではアンケート調査時に協力者を募った、ヒアリング調査について報告する。アンケートでは拾えなかった、より詳細な情報を分析検討することを目的とする。

II. 方 法

- ① 対象：アンケート調査協力者のうち、ヒアリングに協力してもよいと答えた人の中から電話やメールで連絡が取れ、かつ了解の得られた14名（男性7名、女性7名）。ただし、うち男性1名とは原稿完成後の連絡が取れず、内容について確認してもらうことができなかったのでデータから削除した。（ヒアリング終了後、謝礼として3000円を支払った。）
- ② 調査時期：2013年8月～9月
- ③ 調査場所：主として大学研究室、対象者の都合により、ターミナル近くの同窓会交流室やホテル喫茶室も利用した。

- ④ 手続き：アンケート調査の内容についてもっと詳しいお話を伺いたいとお願いし、半構造化面接の形で実施。所要時間は1～1時間30分。記録はメモとICレコーダーによる録音を併用した。

Ⅲ. 結果と考察

まず対象者の属性と転職の有無，仕事への意欲，人生への意欲の得点（SCTを採点したものを，前報告を参照のこと）を表1に示した。

表1 ヒアリング対象者一覧

| | 性別 | 学部 | 仕事意欲 | 人生意欲 | 合計 | 現職 | 転職 |
|---|----|----|------|------|-------|--------------------|----|
| A | 男 | 地域 | 5.00 | 5.00 | 10.00 | 地域の新聞社，営業職 | 無 |
| B | 男 | 人科 | 4.67 | 4.67 | 9.34 | 布製品のレンタルリース（工場） | 無 |
| C | 女 | 経営 | 4.67 | 4.33 | 9.00 | 製造業で，営業アシスタントの事務職 | 有 |
| D | 男 | 人科 | 4.67 | 4.00 | 8.67 | 火力発電所の定期点検 | 有 |
| E | 男 | 人科 | 4.33 | 4.33 | 8.66 | 中学の教員（講師） | 有 |
| F | 女 | 人科 | 4.33 | 4.00 | 8.33 | フリーで音響の仕事，事務所に所属 | 有 |
| G | 女 | 経情 | 4.33 | 3.67 | 8.00 | ネイルサロン，スクールの会社の事務職 | 有 |
| H | 女 | 経済 | 3.67 | 3.33 | 7.00 | 調剤薬局の店舗管理，医療事務 | 無 |
| I | 女 | 経情 | 3.00 | 3.00 | 6.00 | 警備会社の事務職 | 有 |
| J | 男 | 人科 | 2.33 | 2.67 | 5.00 | スーパーマーケット | 有 |
| K | 女 | 経済 | 1.67 | 2.67 | 4.34 | 大学の研究室で実験助手 | 無 |
| L | 女 | 人科 | 1.67 | 2.33 | 4.00 | 商社の営業の仕事（電気の制御部品） | 無 |
| M | 男 | 人科 | 2.00 | 1.33 | 3.33 | アクセサリー卸の営業 | 有 |

次にヒアリングの内容について，仕事への意欲と人生への意欲の得点がそれぞれ4点以上の高得点グループ（6名）と3点に満たない低得点グループ（4名）に分け，それぞれについて検討する。

1) 高得点グループの仕事への取組み，やりがい，人生への意欲について

高得点グループのAさんとBさんはともに転職経験がなく，CさんDさんEさんFさんは転職を経験しておられる。

Aさんは就職活動の時から地元でこだわって，業種でもなく土日が休みとか給料が高いとかの待遇でもなく，地元で働けることを最優先して今の会社に入られた。

「僕は型にはまるのが好きじゃないので，今の仕事は合ってる。営業マンの中でも僕らの営業は結構自由ですね，めちゃめちゃ忙しいけど。主に広告を取るのですが，その店をトータルにプロデュースしていく，一緒に育てていく感じがある。やるんやったら本気でやりたいし，思ったらすぐ動かないと気が済まない。しかも自分の目で確かめないと安心できない。（待てない？）はい，だから明日やればいいことも今日やってしまう。だって楽しいもん，みたいな。最近はやるが多くなって，昔よりは順番を考えるようになりましたけど。」

「(夢は?) 最終的にはサラリーマンじゃないと思う。好きなものがいくつかあって、今は趣味の範囲でやっている。いろいろやっていたら何か見えてくるかなと。」

「いいものを隠さず共有できる人ってすごいと思う。あんまり自分の利益を考えてない、相手のことを思って言える人、行動できる人。」

とにかく元気いっぱいやる気いっぱいという印象で、水を得た魚とはこういうことを言うのだらうと思われた。仕事楽しくて仕方ないという感じだったので、仕事しか目に入っていないのかと思っただけで結婚されていると聞いてさらに驚いた。安らげる場所があることで、思い切り仕事に専念できるのかもしれない。「一人の力なんて微々たるもの」という言葉も印象的だった。

Bさんは、現在工場勤務で、体力勝負のしんどい仕事と言いつつもやりがいはある、と言う。

「自分がそこに配属されたのは、たぶん今までと違う見方が必要だと会社が考えているから。やりたい仕事かと言われるとそうでもないけど、好きなことではないことをやる人がいるので世の中まわっていると考えてやっている。」

「(夢?) 幸せな家庭を築くこと、今は出会いがない。仕事では、転職したい気持ちもあるけど、もうちょっと上に行ってから。」

客観的に見れば決して恵まれた職場とは言えない(ただし給料は悪くないという)中で、Bさんは会社が工場建て替え時の現場の意見を必要としていて、そのために自分は今工場に配置されていると考えておられる。そのような会社全体の中での自分の位置が把握できているから、「重い、汚い、しんどい」体力仕事の厳しい日常の中でも高い意欲を維持することができているのではないかと思われた。

Cさんは、初め営業職に就いておられたが、完全ノルマ制になる3年目を前にして、今の仕事、営業アシスタント事務の仕事に転職された。営業には根拠のない自信があったが、売ったもん勝ちという泥臭さが嫌になったそうである。

「前の仕事が悪すぎたので、事務職なら業種は何でもいいと思っていたら2週間くらいで見つかった。ずっとデスクに座っているのは無理と思っていたけど、今の仕事は、人が机に持ってきてくれて、やればやるほど片付いていくんですよ、目に見えて。事務職なんですけど、入力行数とか見積書がどれだけ成果につながったかとかカウントされて毎月ランク付けされる。実力主義があるところがちょっと気に入っています。営業さんからの目線も違ってくるし、女性だからと甘やかされないといい。」

「夢は、結婚したいんですよ。仕事はずっと続けたくて、海外旅行も行きたくて、子どもも5人くらい欲しい。やりたいことがいっぱいあるんです。なので全部やれる環境を自分が持つていくこと。」

「自分がかわいい、1人でいても暇と思う時がない」「1人で生きていける性格だと言

われる」そうで、結婚してうまくやっけていけるかどうかは不安なのだとされた。話を聞いていてとても魅力的で、時間のたつのが早く感じられた。

Dさんは、2回の転職を経て現在の仕事についておられる。1回目は営業職だったが、家の都合で転勤できなかつたために退職。2回目は会社が倒産した。現在の仕事は特殊な点検業務の現場監督の仕事で、ほぼ半年ごとに現場が変わるそうである。

「人とのコミュニケーションが必要で、大学の時の部活での経験が役立っていると思う。副キャプテンをしていたが、キャプテンを補佐しつつ下をまとめるのは今の仕事とよく似ている。技術者さんも職人さんも監督の立ち位置は理解してくれているので、充実している。」
「こんな仕事につくとは思っていなかったの、全く知識がない状態で、人に聞きながら毎日勉強している。こうしたらいいんじゃないかと議論できるようになりたいし、資格も取りたい。」

現場が変わる移動中にわざわざ大学に立ち寄ってくださってのヒアリングであった。自分ではいかんともしがたい状況を潜り抜けて来られ、全く知識のない分野にとび込んで行かれた前向きさと、わからないところははっきり聞くように心がけていると言われたことが印象的だった。

Eさんは現在中学校で講師（常勤だが1年契約）をされているが、小学校の採用試験を受けた。結果はまだ発表されていない、とのこと。

「大学2年の時にボランティアで小学校に行ってから小学校教員志望。当時まだ小学校教員の資格を取れる制度がなかったの、卒業してから通信教育で資格を取った。たまたま口のあった中学校で最初は非常勤今は常勤の講師として働いているけれど、このところ中学校は自分には合わないかなと思っている。もし採用試験に受かっていなくても小学校で講師登録し、正規の採用を目指すつもり。」

「今自分の知識が薄いなあと思う。大学の時は役に立つと思えずしゃべっていた授業もあるけど、聞いておけばよかったなあと思う。授業の仕方をもっと見ておけばよかった。旅行ももっとしていろんなものを見ておけば授業に役立ったと思う。」

教師以外に興味はないとのこと、初志貫徹の気概が伝わってきた。ここまですんなり来られたわけではないが、そのことが今後の教育活動に深みを加えるのではないかと思われた。

Fさんもやりたいことがはっきりしている方である。中学くらいから入りたいと思っていたマスコミ関係で契約社員として働いていたが、やりたいこと（音響の技術者）がはっきりしたため、フリーになられた。

「今は毎日違うことをやりつつ、技術を高めている。それは面白い。しんどいけれど勉強になる。自分にしかできないことがあって、指名されると嬉しい。不規則で1日24時間働くこともある。体力的にもきついが、今はそれを楽しんでいる。いつかは体力の限界が来るか

などと思う。10年くらいはやる。」

「大学生の頃から契約社員として働いていたので時間的余裕がなく、あまり大学に来れなかった。サークルとか、学生というものをもっと楽しみたかった。」

お話を聞きつつ、自分の目標に向かってしっかり考えて進んでおられる強さを感じた。上司に言われたという「真面目にちょける、ちょけるのが仕事」という言葉も印象的だった。

2) 低得点グループの仕事への取組み、やりがい、人生への意欲について

続いて低得点グループの語りを検討する。KさんLさんは転職されておらず、JさんMさんは転職されている。

Kさんは、仕事への意欲の点数が低いが、調査のタイミングがちょうどそれまで打ち込んでいた仕事がひと段落して、次の目標をまだ見つけていない時期だったからではないかと思われる。研究職の実験助手をされている。話を聞いてみると以下のようにかなり前向きである。

「年齢が自分より上で経験もある人でもそこは違うだろうと思うところがいっぱいある。(その人は)仕事に対してこなすことはしてきても、一生懸命やってこなかったような感じを受ける。なぜプラスアルファを求めないのかと思う。言われたことをやるのは当たり前で、その先のことを自分で考えてやっていかないと意味がないと思う。」

「今まで自分の周りにいた人とは全然違った人たちと一緒に仕事できたのは良かった。休みの日も含めて常に仕事のことを考えていた。でもこの人についていきたいと思った人が次々に職場を去られてしまった。自分の仕事はもう終わったように感じる。」

秘書兼助手という仕事で、上司など周りの人の考え方や人間性に左右される仕事のように、尊敬できる人がおられなくなったので、転職も考えているとのことだった。

Lさんは営業職だが、相手はほぼ法人で、部活の先輩に声をかけられて入社。会社は女性の営業を育てていきたいと考えていて、しかしまだ3人しかいないということだった。

「8:00にはデスクに座って、夜の10時ごろまで仕事している。拘束時間は馬鹿みたいに長く給料は良くない。もっとゆとりが持てる仕事があったと思う。はじめ大手ばかりエントリーしていて、リーマンショックの後でダメだと気付いた時には中小のエントリーが終わっていて、滑り止めに受けていた今の会社に入った。3年はやろうと思っていて、今営業に出て2年だからもうちょっとやってみる。自分の中では一生懸命やってからやめたい、今じゃない。逃げるようにやめるのはすごく嫌。(やりがい?)成果が上がると嬉しいけど、それは一部ですね。(やりたかった仕事とは違う?)自分のしたかったことが何なのか未だにわからない。」

会社からは女性営業職として期待され、それに応えもされているようだが、ご本人はどこか違和感をお持ちで、でもそれが何なのかをまだ把握されていないのではないかと感じ

た。学生時代は専業主婦志望だったそうで、仕事においてはこれがやりたいというイメージが乏しいままなのかもしれない。

ここからは転職経験者の語りである。

Jさんは学生の時から買い物が好きで、小売業を選ばれたが、大学生でもできるような仕事だったので、より社会人らしい仕事がしたいと思って転職したと言われた。

「この会社にいると自分が描く将来像にはなれない、自分の子どもに、自分が親にしてもらったことをしてやれないと思った。今は店の一部で予算を組んだり、どこで何を売るかなど自分で提案できる。しんどさは増えたが、給料もやりがいも増えたから転職してよかったと思う。入社して間がないから、年下の人に教えられるのにはまだ慣れないけれど。」

「人間科学部に入ってよかったと思っている。消費者心理とか学んで、勉強自体に興味を持って楽しいなと思えるようになった。」

学ぶこと自体を楽しいと思えるようになったとは、教育者冥利に尽きる言葉である。より高いところ、自己の向上を目指しての転職だったのである。

Mさんは、仕事への意欲得点も人生に対する意欲得点もかなり低かったのだが、調査票記入時は、転職された直後の試用期間だったということである。ヒアリング時点では、すでに正社員として活躍されており、転職も計画的だったそうである。

「2、3年働いたら、自分にはどのくらいの能力があって、どういうことができるのか知りたいから別の会社で働きたいと思っていた。転職組は即戦力として入っているの自分から動かないといけない。自分で考えて自分の裁量で動いているから楽しいと思える。前の会社(同業種)があったから今充実して働いている。」

「今の会社に再就職する前に、友人の紹介で、企業の採用を手伝う会社で契約社員として半年ほど働いた。その時に、企業の側からの見せ方を考えたし、学生のアピールの仕方考えた。なので転職活動はとてもスムーズにできた。」

仕事に対する意欲は、ヒアリング時点では全く低い感じはしなかった。結婚に対しては、以下に述べるように少し懐疑的な印象だった。

「30歳までに結婚したいとか、30歳までに子どもを産みたいという人は多いですけど、僕自身あんまり好きじゃなくて、何で子ども産まなあかんのとか、子どもを作ることが大前提みたいな、本質がどれなん？子ども育てたいんやったら誰と結婚してもいいですよ。でも結構選ぶじゃないですか、なんやねんって思います。」

3) 得点が平均的だった人の語り

ここまで見てきたように高得点グループと低得点グループの働くことや生きることへの意欲の違いは、それほど大きなものではないように思われる。ただ、人生には波があり、アンケート時点がその波の低い時点と重なったために得点が低くなったのではないだろうか？得点が平均的だった人の語りは本来取り上げる必要はないのかもしれないが、貴重な

語りから学ぶべきものがあると思うので以下に記述する。

Gさんは大学2年の時からこの業界と決めていたそうである。大学を辞めて専門学校に行くと言ったら、親になぜこの学校かと問われ、調べたら夜間の学校もあることがわかって、退学はせずそこに通ったそうである。転職ははじめに就職した会社の業績が悪くなって移転したが、移転先が遠くなったので、同じ業種の別の会社が変わったという。

「(狭い業界なので)面接してくださいと直接履歴書を送ったら、十数社のうち半分くらいは面接してくれた。通勤時間が短くなって疲れる度合いが違う。自分の時間も増えた。無職の期間があるので雇ってもらえるのはありがたいと思うようになった。」

「将来は自分でやりたいという夢がある。子どもも好きなので家庭と両立させたい。でも今じゃない。技術の進歩が速いので今も勉強を続けている。」

現在は事務職だが、技術も学んでいるそうで、これをやりたいというはっきりとした意志とともに、現状での最良の選択をするという現実感覚も持っておられるように思った。

Hさんは、在学中からアルバイトしていた店舗にそのまま就職し、現在は店長を務めておられるが、社風が合わない、一生続ける仕事ではないように思うとのことで、それはアルバイト中にはわからなかったそうである。

「店長としてみんなをまとめることに向いてないと思うし、上司やほかの店長とも合わない。子どものころから職人さんがいいなあと思っていた。テレビで見る職人さんの一挙手一投足から目が離せなかったりする。事務処理は得意なのでやっているが、できれば職人さんの仕事をそばで見てサポートするような仕事があればと思う。」

Hさんの場合、表面的には仕事をこなしているけれど、ご自身の指向性とは全く異なる仕事についてしまわれたようである。そして、今のところはまだ思い切ってそこから違う道へと考えておられない。自分の考えとは違っていても、周りに合わせてしまうタイプなのだろうと思われた。それが仕事や人生への意欲をそこそこの高さにとどめているのではないだろうか。

Iさんは現在は警備会社の事務職である。卒業後最初に勤めた会社は家から遠く、給料も少なかったため退職、次に働いた雑貨店はつぶれたそうである。友達が勧めてくれて今の会社に入った、今は事務所勤務だがいずれは本社で経理の仕事をするとのことである。

「就活の時、大学に入った理由を聞かれて、教師になりたかったが、教職の取り方がわからなかった、と言ったら、そこであきらめたんだねと言われた。聞けばよかったのに。自分でやろうと思ったことはうまくいかない。雑貨店は倒産するし。本気で頑張って取り組んでなかったのかもしれない。最初の会社は雑貨卸の会社だったが、家族経営で余計なことを言うと言われる会社だった。高校は友達が行くと言うから受けたら合格したし、今回も友達に誘われた会社で、ここで続けていこうと思っている。」

どういうわけか、ご自身でやりたいと思ったことはうまくいかず、友達に勧められて決めたことの方がうまくいくという経験が重なっておられるようである。そのことが仕事や人生への意欲に関係しているかもしれない。良き友を持つことは良き人生につながるということがわかる。

4) 在学生に伝えたいこと

一足先に社会人になった先輩から在学生に伝えたいことは何かと質問した。表2にその答えを簡略にしたものを示す。まとめると次の3点になるのではないかと思う。①好きなこと興味のあることはやってみる方が良い。②学生のうちに見聞を広め、人間の幅を広げる。③就活に際しては良く調べよく考える、妥協しない。ただし、逆にやりたい仕事でなくても続けていくことが大事、ときには妥協も必要という意見もあった。

表2 在学生に伝えたいこと

| | |
|---|---|
| A | 今日は今日しかない。行けるときに行っとけ。好きなことを伸ばしてほしい。 |
| B | 大学時代にやりたいことを探す。当たり前のことを当たり前に考えていてはダメ、いろんな方向から考える。 |
| C | 楽な仕事はない。就職を決めるより、続けることが大切。話の引き出しが多い人はどこでもうまくいく。 |
| D | 1回生から、やりたいことというより興味のあることを明確にしておく方が良い、それと自分を知ることも。 |
| E | もっとしっかり授業を聞いておけばよかった。旅行もしておけばよかった。 |
| F | なかなか就職が決まらなくても妥協はしてほしくない。自分のやりたいことをしてほしい。 |
| G | 出来てないことを指摘されても素直に認めてありがとうと言える人は育ててもらえる。興味のあることはやった方がいい。 |
| H | 学びたい放題やりたい放題の夢のひとつだった。ちょっと面倒でもボランティアとかやった方がいいと思う。 |
| I | 遊べるときに十分遊ぶ。何か頑張ったと言えることをしてほしい。 |
| J | 募集要項に書いてあることを鵜呑みにしてはいけない。そこで働いている人に話を聞く方がいい。 |
| K | 今言われてもわからないかもしれないけど、映画とか音楽とかたくさん見たり聞いたりした方がいい。 |
| L | 自分が何をやりたいのかよく考えるべき。休日や福利厚生をしっかりと見ておく。 |
| M | 自分がしようと思ってやったことと人に言われてやったことは意味が違う。 |

5) ヒアリングのまとめ

以上をまとめる。まず転職についてであるが、転職経験のある人8名のうち、キャリアアップや実力を試してみたいなど積極的な理由を挙げた人が6名であった。倒産や転勤に応じられなかったなどの企業側の理由による人が4名（2回転職している人もいるので合計8にならない）で、人間関係や仕事がハードすぎるなど精神的体力的理由を挙げた人はほとんどいなかった。むしろ、理由は一つではなく人間関係なども含めて複合的に考えての決心だったかもしれないが、「音響技術の仕事がしたかった」「自分にどういうことができるのか、別の会社で試してみたかった」などより向上したいという前向きな姿勢が目立った。市川（2014）の報告と同様、意欲が乏しく忍耐力の欠如からすぐに退職・転職しているのではないことがここでも明らかになった。また、待遇が良くないことも必ずしも転職の理由にはなっていない。比較的恵まれた職場でも「前職は学生でもできそうな仕事だっ

た」という理由で転職されているし、「体力勝負できついがやりがいはある」「不規則だし体力的にもきついが今はそれを楽しんでいる」と、働き甲斐があれば、続けておられる。「自分の裁量で動ける」「実力主義がある」「指名される」など、努力が評価されることや自身に決定権があることが働き甲斐につながっていると思われた。給料を得る、昇進するというような報酬を目的として、つまり外発的動機づけにより働くよりも、仕事自体が面白いとか楽しいというような内発的動機づけによって働く方が、やりがいがあるという従来の説（岡田，2013）を裏付ける結果となった。内発的動機づけを構成するのは、知的好奇心と自己決定感であり、「技術を磨くのが楽しい」「自分の裁量で動ける」と述べられていることと対応する。

次に仕事や人生への意欲という視点で考えると、得点が高い人は、「最終的にはサラリーマンじゃない」「技術を高めるのが面白い」とか「学生の頃から〇〇志望だった」「家庭と両立したい」というように、夢があり将来の目標がはっきりしている。一方低めの方は、「自分が何をしたいのか未だにわからない」というように、目標がはっきりしていない感じがした。ただし先にも述べたように、人生には波があり、その波の底の時期にアンケート時期が重なった場合もあり、必ずしもその人の変わらぬパーソナリティとは言えない。

仕事や人生に特化した刺激語からなる SCT を用いたが、協力者の記入時の状況をよく反映していると思われた。つまり、ロールシャッハテストのようにあまり変化しない人格の深い部分を読み取るものではなく、投影法の中では比較的浅い、その時の状況の影響を受けやすい部分を拾うのにすぐれていることが改めて実証された。

総じて、ヒアリングに応じてくれた人は皆、今の仕事に一生懸命取り組んでおられるという印象であった。そのためか、個人的感想になるが、ヒアリングはとても楽しかった。新卒就職後3年以内に退職する人が3人に1人と聞いて危機感を持ったが、一人一人にヒアリングしてみると、それぞれにしっかりと人生について仕事について考えておられることがわかり、ひとまずこの危機感は杞憂に終わった。しかし、ヒアリングに協力しなかった人たちの中にこそ、心配の種はあるかもしれない。それを明らかにするには、アプローチの仕方を工夫する必要があると考える。

<謝辞>

お忙しい中、ヒアリングに協力してくださった卒業生の皆様、テープ起こしを手伝ってくれた学生の皆様に感謝いたします。

<付記>

この研究は2013年度大阪経済大学特別研究費の助成を受けて実施されたことを付記します。

<参考文献>

- 市川緑（2014）若年者の働く意欲・生きる意欲について—大学卒業後3年の社会人を対象とした調査より— 大阪経大論集 第64巻第6号 pp 99～112
- 岡田昌毅（2013）『働く人の心理学』ナカニシヤ出版
- 佐野勝男・横田仁（1972）『文章完成法テスト解説—成人用—』金子書房